

Windows



CorelDRAW[®]

GRAPHICS SUITE 2021

クイック スタート ガイドをご確認ください

CorelDRAW Graphics Suite 2021

CorelDRAW® Graphics Suite 2021 ではアプリケーション (CorelDRAW® 2021、Corel PHOTO-PAINT™ 2021、Corel® Font Manager 2021) と補助プラグインが完全統合され、ベクトルイラストやページレイアウトから、写真編集、ビットマップからベクトルへのトレーシング、Web グラフィック、フォント管理まで、あらゆる操作に対応しています。

CorelDRAW 2021 の作業領域

タイトルバー: 開いたドキュメントのタイトルが表示されます。

メニューバー: プルダウン オプションとコマンドが表示される領域。

ツールボックス: 描画内のオブジェクトの作成および修正に使うツールが表示されます。

描画ウィンドウ: スクロールバーとアプリケーション コントロールで囲まれた領域。これには、描画ページと周囲の領域が含まれます (デスクトップとも呼ばれます)。

描画ページ: 描画ウィンドウ内の長方形の領域。プロジェクトの印刷可能な領域です。

ドキュメントナビゲータ: ページの表示、追加、名前変更、削除、複製を行う領域。

ドキュメントのパレット: 現行のドキュメントのカラー ボックスを持つ固定可能なバー。

ルーラー: マーカーがある目盛り付きの線。描画内のオブジェクトのサイズと位置を決めるために使います。

標準ツールバー: 開く、保存、印刷など、メニューとその他のコマンドへのショートカットが表示される移動可能なバー。

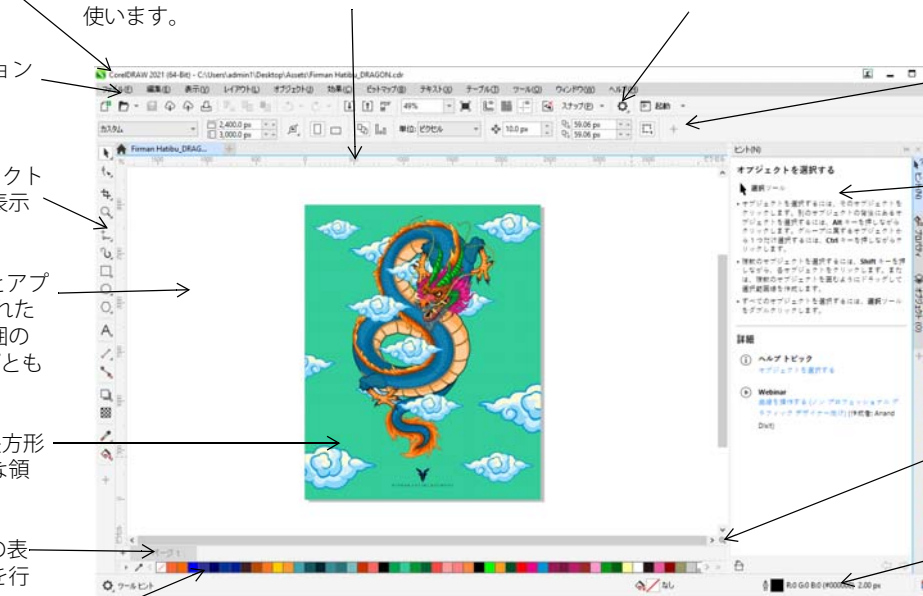
プロパティバー: アクティブなツールやオブジェクトに関連するコマンドが表示される移動可能なバー。

ドッキングウィンドウ: 特定のツールやタスクに関連するコマンドや設定が表示されるウィンドウ。

カラーパレット: カラー ボックスが入った固定可能なバー。

ナビゲータ: このボタンをクリックすると、描画を示す小さなウィンドウが表示され、描画内を簡単に移動できます。

ステータスバー: オブジェクトのタイプ、サイズ、カラー、塗りつぶし、解像度など、オブジェクトのプロパティに関する情報が表示されます。また、ステータスバーには現在のカーソル位置も示されます。



Welcome スクリーンからは、ドキュメントを素早く開始したり開いたりできます。また、ニーズに最適な作業領域を選択したり、学習ビデオなどの学習資料にオンラインでアクセスしたり、CorelDRAW Graphics Suite で作成されたオリジナル アートワークのギャラリーを参考にしたりできます。また、発見ファイルは CorelDRAW と Corel PHOTO-PAINT の両方をすばやく使い始める上で役立ちます。



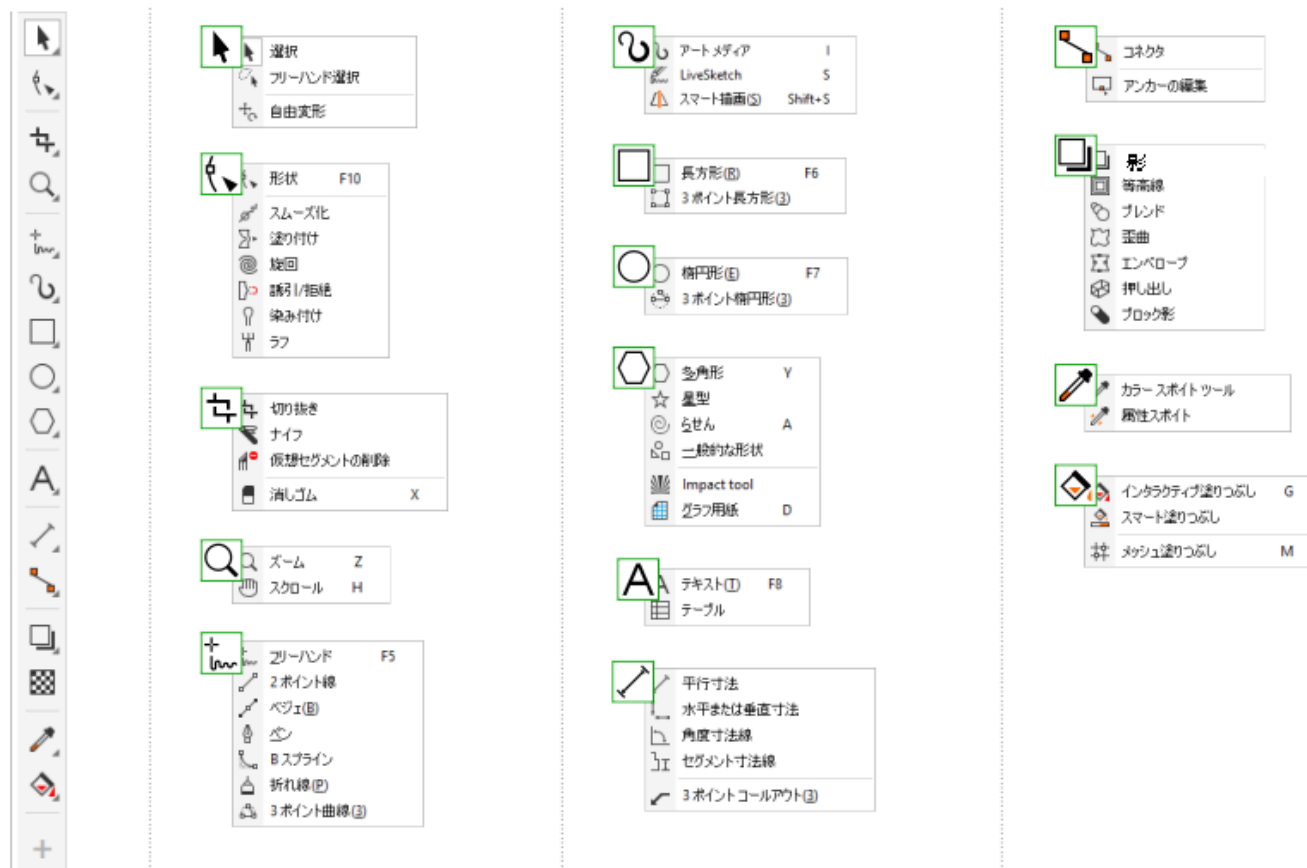
作業領域選択

特別な作業領域の集合。特定のワークフローやタスクでよく使用されるツールにアクセスしやすくして生産性を向上することが目的です。利用可能な作業領域には、デフォルト、タッチ、ライト、イラスト、ページレイアウト、Adobe Illustrator などが含まれます。

- 作業領域を選択するには、[ウィンドウ] ▶ [作業領域] をクリックするか、Welcome スクリーンで使用可能な作業領域のいずれか 1 つを選択します。
- アクティブな作業領域にツールまたはコントロールを追加するには、[素早くカスタマイズ] ボタン **+** をクリックします。

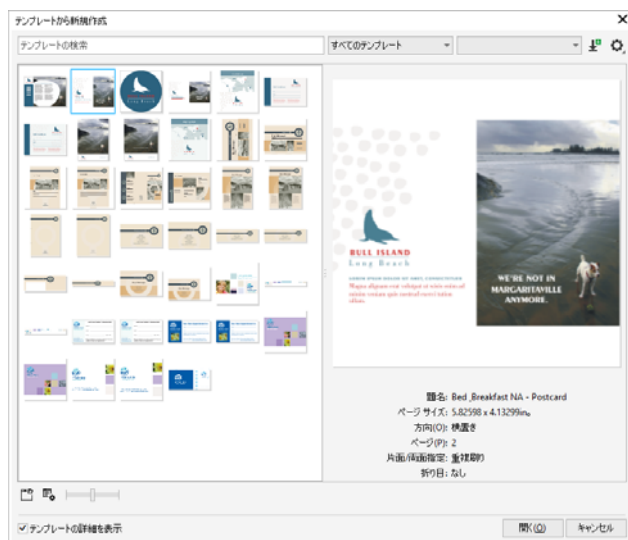
CorelDRAW 2021 のツールボックス

CorelDRAW ツールボックス内のツールの多くは、フライアウト内に整理されています。これらのツールにアクセスするには、ボタンの右下にある小さい矢印をクリックします。下の図は、デフォルトの作業領域で利用できるツールボックスとフライアウトを示しています。これによりツールを簡単に見つけることができます。それでも探しているツールが見つからない場合は、ツールボックスの下部にある[素早くカスタマイズ] ボタン **+** をクリックします。[素早くカスタマイズ] ボタンで、あまり使わないツールを非表示にすることもできます。



テンプレート

[テンプレートから新規作成] ダイアログ ボックス ([ファイル] ▶ [テンプレートから新規作成]) では、最新のテンプレートを参照・検索して、ロゴやパンフレット、ステーションナリなどのデザイン プロジェクトを開始できます。

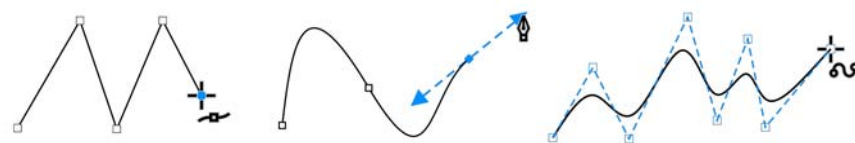


行間

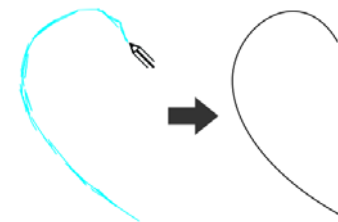
曲線フライアウトの描画ツールを使用では、曲線や直線のほか、曲線と直線のセグメントを含む線を描くことができます。線セグメントは、小さな正方形で描かれるノードによって接続されます。

スケッチ パッドにスケッチする場合は、フリーハンド ツール  と折れ線 ツール  を使用してフリーハンドの線を描くことができます。

ベジェ ツール  とペン ツール  では、各ノードに精度を設定したり各曲線セグメントの形状を制御したりすることにより、一度に1つずつセグメントを追加しながら線を描きます。B スプライン ツール  では、フリーハンドパスを使用して描画された曲線よりノード数が少ない滑らかな曲線を作成できます。



LiveSketch™  ツールを使用すると、インテリジェントなストローク調整とベクトル描画が可能になり、フリーハンドのスケッチを簡単かつ迅速に行えるようになります。LiveSketch ツールを使用してスケッチすると、CorelDRAW により、スケッチの分析、調整、およびベジェ曲線への変換が行われます。

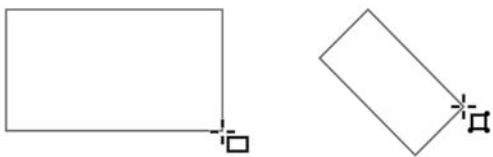


整形

CorelDRAW には、図形を描くためのさまざまなツールが用意されています。

長方形

長方形 ツール  で (Ctrl キーを押しながら) 対角線方向にドラッグすることで、長方形や正方形を描くことができます。[3 ポイント長方形] ツール  を使用すると、傾いた長方形を素早く描くことができます。



楕円形

楕円形ツール  では対角線方向にドラッグすることで楕円形を描くことができます。Ctrl を長押しすると、形状が円に制限されます。3 ポイント

楕円形ツール  では、傾いた楕円形を簡単に描くことができます。



弧や扇形を描くには、プロパティバーの[弧]ボタン  または[扇型]ボタン  をクリックしてドラッグします。

複雑な形状

オブジェクト フライアウトのツールを使用して、多角形、グリッド、らせんのほかに、完全な星型と星型多角形の 2 種類の星型を描くことができます。プロパティバーを使って、多角形の辺の数、星型のポイントの数、グリッドの列の数、らせんの回転数を変更します。



定義済み図形

オブジェクト フライアウトの一般的な形状ツールを使用して、基本図形、矢印、フローチャート形、バナー、コールアウト形を描くこともできます。プロパティバーでプリセットの形状を選択し、菱形のハンドル(グリフ)をドラッグして形状の外観を修正します。

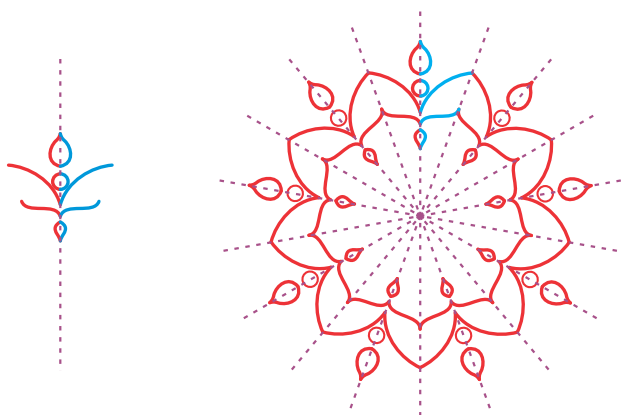


対称描画

CorelDRAW では、対称オブジェクトや対称デザインをリアルタイムで作成できます。対称デザインにはベクトル オブジェクトとビットマップ オブジェクトのどちらも含めることができます。



 対称デザインを作成するには、曲線または形状を選択するか描画して、[オブジェクト] ▶ [対称] ▶ [新規対称の作成] をクリックします。必要に応じて、オブジェクトを追加したり編集したりします。対称線を追加するには、フロート ツールバーの[線のミラー化]ボックスに数を入力します。[オブジェクト] ▶ [対称] ▶ [対称の編集を終了] をクリックします。



平行線の描画

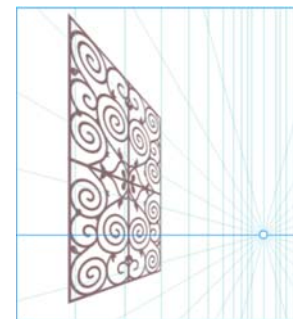
CorelDRAW では、複数の平行な曲線を、曲線どうしの距離をコントロールしながら同時に描画できます。また、既存の線に平行線を追加することもできます。



平行線を描画するには、曲線ツールをクリックし、プロパティバーの【平行線の描画】ボタン  をクリックします。【平行線の描画】ツールバーで【平行線】ボタン  をクリックし、描画ウィンドウで描画します。

遠近効果を用いた描画

遠近効果を用いて描画すると、複雑なスケッチ、パターン、デザインを描画して、距離や奥行ききの視覚効果を与えることができます。遠近効果を用いて描画すると、CorelDRAW が視点場を自動で作成し、遠近効果の線に沿って線や図形を追加できるようになります。これにより、視点場と追加されたオブジェクトからなる遠近効果グループが形成されます。

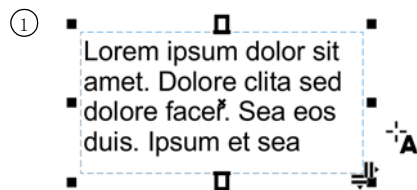


遠近効果を用いて描画するには、選択ツールを使用して描画ウィンドウ内の空白部分をクリックし、オブジェクトが何も選択されていない状態にします。【オブジェクト】▶【遠近効果】▶【遠近効果を用いた描画】の順にクリックし、フローティングツールバーの【タイプ】リストボックスから遠近効果のタイプを選択します。描画ウィンドウ内をドラッグして、視点場を設定します。描画する平面を選択するには、次のいずれかのボタンをクリックします。【正投影】、【上】、【左】 (1点遠近法の場合は【側面】、または【右】)。直線ツールまたは整形ツールをクリックし、オブジェクトを1つまたは複数描画します。フロートツールバーで【終了】をクリックします。

既存のオブジェクトを遠近効果グループに追加するには、オブジェクトを右クリックし、【平面に移動】をクリックして平面を選択します。

テキスト

描画に追加できるテキストは2種類あります。(1) 段落テキスト、そして(2) アートテキストです。また、外部ファイルから既存のテキストをインポートしたり、クリップボードからテキストを貼り付けたりすることもできます。



段落テキストは、複雑なフォーマットの設定が必要な長いテキスト段落に使用します。段落テキストを追加するには、事前にテキスト ツール **A** でドラッグしてテキスト フレームを作成しておく必要があります。

 プレースホルダ テキストを挿入するには、テキスト ツールで空のテキスト フレームをクリックし、[テキスト] ▶ [段落テキストフレーム] ▶ [プレースホルダ テキストを挿入] をクリックします。プレースホルダ テキストにより、コンテンツを最終決定する前に、ドキュメントの外観をより簡単に評価できます。

アート テキストは短い行のテキストに使用し、ドロップシャドウや等高線などのさまざまな効果を適用できます。アート テキストは開いたパスや閉じたパスにも追加できます。

テキストをパスに結合する

テキストをパスに結合するには、テキストを選択し、[テキスト] ▶ [テキストのパス結合] をクリックします。パスの上にポインタを置き、ダイナミック プレビューを使用してテキストを配置します。クリックすると、テキストがパスに結合されます。



 テキストをパスに入力するには、テキスト ツール **A** をクリックし、パスにカーソルを合わせます。ポインタがパス結合ポインタに変わってからクリックすると、テキストが追加されます。

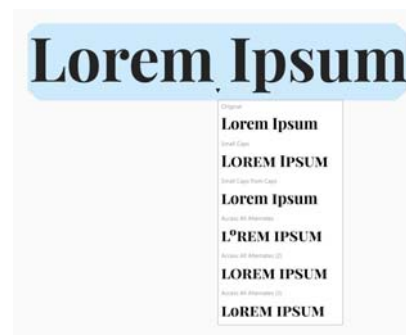


フォントの検索

CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT の [フォント リスト] ボックスを使用すると、フォントを簡単に参照、フィルタ、検索できます。ウェイト、幅、サポートされるスクリプトなどに基づくフォントのフィルタ、キーワードを使用したフォントの検索、およびフォント パックのダウンロードを簡単に行うことができます。

OpenType 機能と可変フォント

フォントや選択した文字が OpenType 機能に対応している場合は、OpenType 機能を使用して個々の文字 (グリフ) に対する代替の外観を選択できます。OpenType 機能には、分数、合字、序数、飾り文字、小型大文字、スワッシュ字型などがあります。OpenType フォントは Unicode をベースにしており、複数のプラットフォームや複数の言語を使用するデザイン作業に理想的です。また、CorelDRAW では、テキストに適用できる OpenType の機能が表示されます。



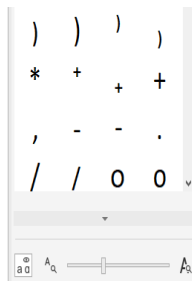
OpenType 可変フォントの柔軟性を活かして、フォントの外観をインタラクティブに微調整できます。可変フォントは、1 つまたは複数の幅、ウェイト、スラントなどの軸に沿って変更したり、フォント デザイナーが指定したカスタム軸に沿って変更したりできます。



④ 可変フォントのプロパティを調整するには、テキスト **A** ツールを使用して可変フォントを使用しているテキストを選択します。プロパティバーの[可変フォント] ボタン **AA** をクリックし、使用可能なフォント プロパティを調整します。

[グリフ] ドッキング ウィンドウ

[グリフ] ドッキング ウィンドウ ([テキスト] ▶ [グリフ]) では、選択したフォントに対応する文字、シンボル、グリフがすべて表示され、文字を検索してドキュメントに挿入するのがより簡単になっています。



ページ レイアウト

[ページ] プロパティ バーでは、ページのサイズ、寸法、方向、測定単位、カーソルキー移動距離、複製との間隔など、ページの設定を調整できます。

① [ページ] プロパティ バーにアクセスするには、選択ツール  をクリックして、描画ウィンドウの空白領域をクリックします。



① プロパティ バーの[ページ サイズ] リスト ボックスから、プリセット ページ サイズを選択します。

② [ページ サイズ] ボックスでカスタムのページの幅と高さを指定します。

③ [ページを自動調整] ボタンをクリックして、ローカル レイヤに配置されたコンテンツの境界にページのサイズを変更します。

④ ページの向きを[縦置き]または[横置き]に設定します。

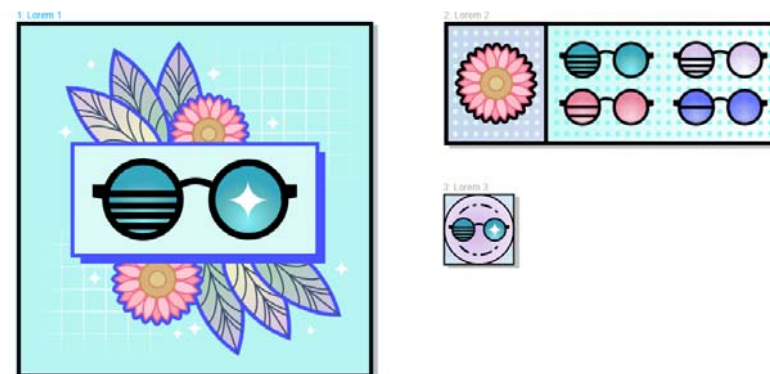
⑤ [現行のページ] ボタンをクリックし、ページ サイズを現在のページのみに適用します。

⑥ [単位] リスト ボックスから測定単位を選択します。

ページの操作

一度に1ページまたは複数ページ表示できます。マルチページ表示ではドキュメント ページをすべて一度に表示でき、タブを繰り返しクリックして行き来する必要がありません。

① マルチページ表示に切り替えるには、[表示] ▶ [マルチページ表示] をクリックします。



[ページ] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ページ]) では、ページをドキュメントの順序、または自由形式のいずれかのモードで表示できます。ページ順が決まっているカタログ、書籍、雑誌などの印刷物のプルーフをデザインおよびレビューする場合は、ページを列、行、グリッド形式で整列させることができます。カスタム モードでは、順序に縛られない自由な形式のレイアウトを使用でき、プロジェクトの各種アセットが個別のページに配置されているドキュメントの作業に適しています。



🔧 複数ページの各ページを配置するには、[ページ] ドッキング ウィンドウの [マルチページ表示] をクリックし、次に [マルチページ表示の設定] ボタンをクリックします。ドキュメントの順序でページを表示するには、[グリッド] 、[縦] 、または [横] ボタンをクリックします。ページを自由形式で表示するには、[カスタム] ボタン をクリックします。

描画ウィンドウ内のページに移動するには、[ページ] ドッキング ウィンドウ内のページをクリックするか、アプリケーション ウィンドウの下部にある対応するページ タブをクリックします。

ページを挿入、複製、名前変更、または削除するには、[ページ] ドッキング ウィンドウでページを右クリックし、対応するコマンドをクリックします。

🔧 ページ番号を挿入するには、[レイアウト] ▶ [ページ番号の設定] をクリックし、必要な設定を選択します。

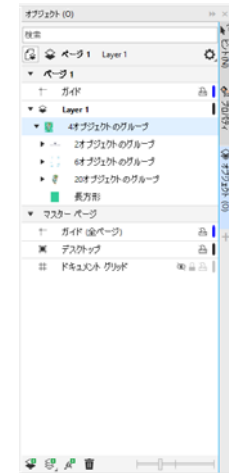
ページ レイアウト ツール

ルーラー、グリッド、およびガイドラインを表示すると、オブジェクトを整理して配置できます。

🔧 グリッド、ガイドライン、およびルーラーの表示 / 非表示を切り替えるには、[表示] メニューをクリックし、表示する項目を選択します。

レイヤ

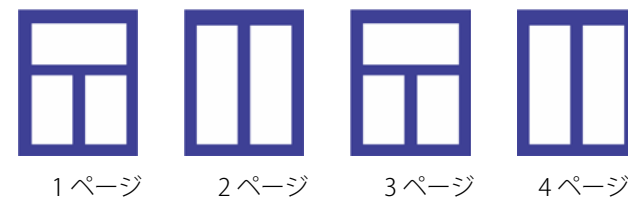
すべてのコンテンツはレイヤに配置されます。特定のページに適用されるコンテンツは、ローカル レイヤに配置されます。ドキュメント内のすべてのページに適用されるコンテンツは、マスター レイヤと呼ばれるグローバル レイヤに配置できます。マスター レイヤは、マスター ページと呼ばれる仮想ページに配置されます。



マスター レイヤ

奇数ページ、偶数ページ、またはすべてのページのマスター レイヤを選択することで、16 ページのパンフレットや 32 ページのパンフレットといった複数ページのドキュメントでページごとのデザインを簡単に作成できます。

たとえば、偶数ページと奇数ページでヘッダーとフッターのデザインを変更できます。



描画スケール

プリセットまたはカスタム描画スケールを選択して、描画内の距離を実寸に比例させることができます。たとえば、描画内の1インチが実寸の1メートルに相当するように指定できます。

 描画スケールを設定するには、ルーラーをダブルクリックして、[ドキュメント オプション] ダイアログ ボックスを表示します。[スケールの編集] をクリックし、プリセットまたはカスタムの描画スケールを選択します。ルーラーが表示されていない場合は、[表示] ▶ [ルーラー] をクリックします。

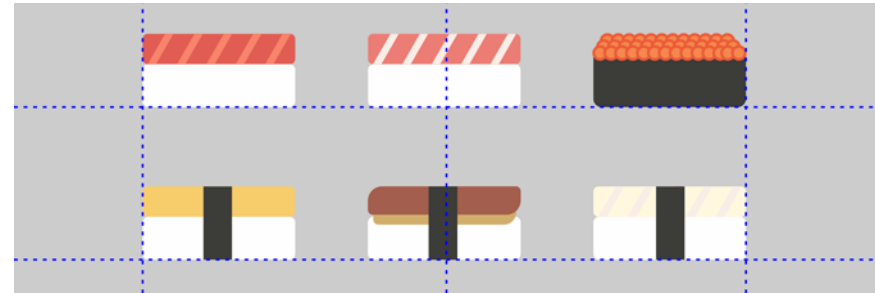
グリッドとベースライン グリッド

グリッドは一連の交差する破線または点として表示され、これを使用して描画ウィンドウにオブジェクトを正確に整列および配置できます。ベースライン グリッドは罫線入りシートのパターンに沿った線で構成され、テキストのベースラインの整列に役立ちます。

 グリッドおよびベースライン グリッドを設定するには、[レイアウト] ▶ [ページ レイアウト] をクリックし、ダイアログ ボックスの左側のペインで [グリッド] を選択します。

ガイドライン

ガイドラインは、描画ウィンドウのどこにでも引くことができ、オブジェクトを配置に役立ちます。ガイドラインの選択、移動、回転、ロック、削除や、ガイドラインのカラーや破線パターンの変更が可能です。



 ガイドラインを追加するには、垂直ルーラーまたは水平ルーラーから描画ウィンドウにドラッグするか、または [レイアウト] ▶ [ページ レイアウト] をクリックし、ダイアログ ボックスの左側のペインで [ガイドライン] を選択します。

スナップ

オブジェクトを移動または描画する際に、描画内の他のオブジェクト、ページ要素 (ページ中心など)、ドキュメント グリッド、ピクセル グリッド、ベースライン グリッド、またはガイドラインにオブジェクトをスナップできます。オブジェクトをスナップ ポイントの付近に移動すると、そのスナップ ポイントにロックされます。

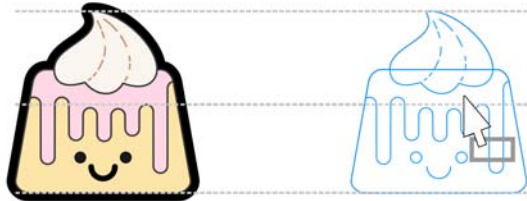
 スナップをオンまたはオフにするには、標準ツールバーで [スナップ] をクリックし、目的のページ要素のスナップを有効または無効にします。

選択したスナップ オプションを一時的にすべて無効にするには、[表示] ▶ [スナップ オフ] をクリックします。選択したスナップ オプションを復元するには、[表示] ▶ [スナップ オフ] を再びクリックします。

整列ガイド

整列ガイドを使用すると、オブジェクトを手際よく配置できます。整列ガイドは一時的なガイドラインで、近くのオブジェクトの中心やエッジを基準にオブジェクトを作成、サイズ変更、移動するときに表示されます。

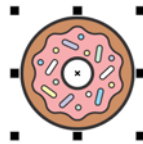
- ❓ 整列ガイドを表示するには、[表示]▶[整列ガイド]をクリックします。整列ガイドの設定を変更するには、[ウィンドウ]▶ドッキングウィンドウ▶[ライブガイド]をクリックし、使用するオプションを選択します。



オブジェクトを操作する

オブジェクトの操作は、描画の作成の重要な要素です。

- ❓ 選択ツール  でオブジェクトを選択すると、選択ハンドルがアクティブになります。縦横比を保ったままオブジェクトの寸法を変更するには、コーナーハンドルをドラッグします。縦横比を保たずにオブジェクトの寸法を変更するには、中央のハンドルをドラッグします。
- ❓ 複数のオブジェクトを選択するには、**Shift** キーを押しながら各オブジェクトをクリックします。
- ❓ 選択したオブジェクトを移動するには、オブジェクトの中心にカーソルを置き、オブジェクトを新しい位置までドラッグします。矢印キーを押すと、プリセット距離だけオブジェクトが移動します。プリセット距離の整数分の1だけ移動するには、**Ctrl** キーを押しながら矢印キーを押します。プリセット距離の倍数だけ移動するには、**Shift** キーを押しながら矢印キーを押します。



- ❓ オブジェクトを2回クリックすると、回転ハンドルがアクティブになります。オブジェクトを時計回りまたは反時計回りに回転させるには、コーナーハンドルをドラッグします。オブジェクトをインタラクティブに斜変形化するには、中央のハンドルをドラッグします。オブジェクトの相対中心点を設定するには、中心をドラッグします。



オブジェクトをグループ化すると、複数のオブジェクトが単体として取り扱われます。グループ化により、同じフォーマットをグループ内のすべてのオブジェクトに適用できます。

- ❓ 選択したオブジェクトをグループ化/グループ解除するには、[オブジェクト]▶[グループ]をクリックし、希望するオプションを選択します。

描画内のオブジェクトはスタック順、通常はオブジェクトの作成順またはインポート順に表示されます。

- ❓ 選択したオブジェクトの順序を変更するには、[オブジェクト]▶[順序]をクリックし、メニューでオプションを選択します。



- ❓ オブジェクトを作成順に選択するには、**Tab** キーを押します。

ビットマップやベクトル オブジェクトから不要な部分を消去するには、**消しゴム ツール**  を使用します。特定のオブジェクトの一部だけを消去するには、該当するオブジェクトを選択する必要があります。選択されているオブジェクトがない場合、消しゴム ツールをドラッグした場所はすべて消去されます。

オブジェクトをパスに結合するには、**選択ツール**  を使用してオブジェクトを選択します。**Shift** キーを押しながらパスをクリックし、**[オブジェクト] ▶ [オブジェクトのパス結合]** をクリックします。**[オブジェクトのパス結合]** ドッキングウィンドウで、必要な設定を選択し、**[適用]** をクリックします。



[プロパティ] ドッキング ウィンドウ

[プロパティ] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [プロパティ]) には、オブジェクト固有のフォーマット オプションおよびプロパティが表示されます。

たとえば、長方形を作成する場合は、**[プロパティ] ドッキング ウィンドウ** に、輪郭、塗りつぶし、および透明度のオプションの他、長方形のプロパティが自動的に表示されます。テキスト フレームを作成すると、ドッキング ウィンドウには、文字、段落、およびフレームのフォーマット設定オプション、さらにテキスト フレームのプロパティが即座に表示されます。

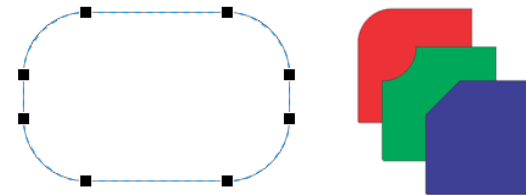


オブジェクトを整形する

オブジェクトの形状を変更するには、**整形ツール**  を使用します。オブジェクトの種類により整形方法は異なります。

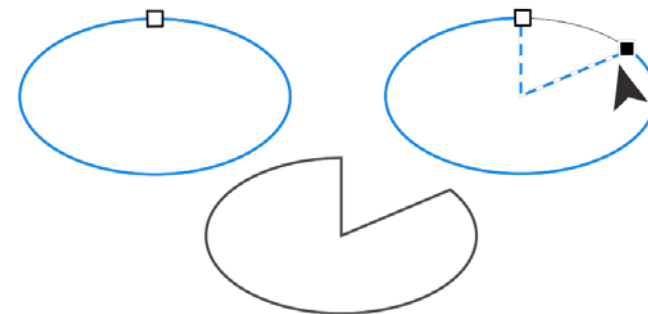
長方形

整形ツール  で長方形の角をドラッグすると、すべての角を丸めることができます。また、**長方形ツール**  をクリックして、プロパティ バーから面取り、スカルップ、丸型の角を作成することもできます。



楕円形

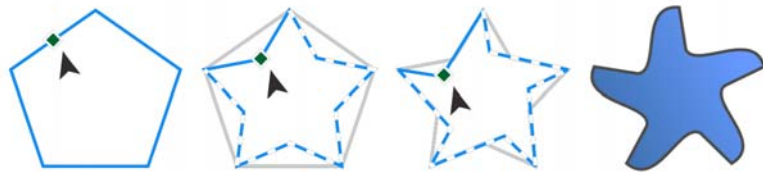
楕円形から扇形を作成するには、ポイントを楕円の内側に置いて、**整形ツール**  で楕円形のノードをドラッグします。



楕円形から弧を作成するには、ポイントを楕円形の外側に置いてノードをドラッグします。

多角形と星型

多角形や星型を変形するには、**整形ツール**  をクリックし、希望する方向にノードをドラッグします。多角形から星型を作成するには、中心方向にノードをドラッグします。

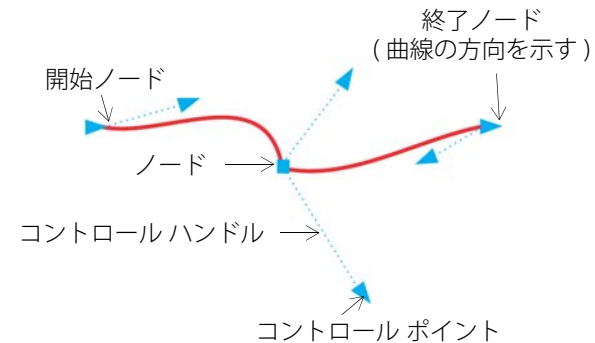


オブジェクトを曲線に変換する

長方形ツール  や楕円形ツール  などの整形ツールで作成したオブジェクトで個々のノードを編集するには、事前にオブジェクトを曲線に変換しておく必要があります（[オブジェクト] ▶ [曲線に変換]、または **Ctrl + Q**）。ただし、多角形ツール  で作成したオブジェクトは例外で、この規則は適用されません。

直線と曲線を整形する

曲線オブジェクトや直線オブジェクトを整形するには、**整形ツール**  でオブジェクトのノードやセグメントを操作してノードを追加したり削除したりします。



 ノードを追加するには、パスをダブルクリックするか、パスをクリックしてプロパティバーの[ノードの追加]ボタンをクリックします。

 ノードを削除するには、ノードをダブルクリックするか、ノードを選択してプロパティバーの[ノードの削除]ボタンをクリックします。

 ノードの数を削減するには、**整形ツール**  でノードを選択範囲線で選択し、プロパティバーの[ノード数の削減]をクリックします。

塗りつぶしと輪郭

オブジェクトの内側や、何らかの形で囲まれた領域に様々な塗りつぶしを追加したり、オブジェクトの輪郭のカラーを変更したりできます。

塗りつぶしタイプ

オブジェクトの塗りつぶしには、標準、グラデーション、パターン、テキストチャ、PostScript、およびメッシュを使用できます。グラデーション塗りつぶしは2色以上のカラーが徐々に変化する塗りつぶしです。



また、ベクトル グラフィック (ベクトル パターン塗りつぶし) やビットマップ イメージ (ビットマップ パターン塗りつぶし) でオブジェクトを塗りつぶすこともできます。

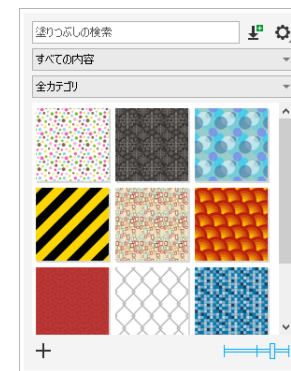


テクスチャ塗りつぶしでは、水、雲、石など自然界の物質の外観をシミュレートできます。PostScript 塗りつぶしは、PostScript 言語で作成された複雑なテクスチャ塗りつぶしです。



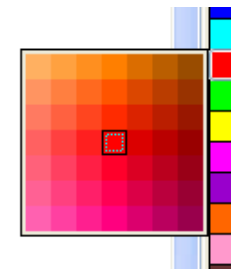
メッシュ塗りつぶしはカラーを滑らかに変化させることでオブジェクトにボリューム感や立体的な効果をもたらします。

選択されたオブジェクトを塗りつぶすには、ツールボックスで**インタラクティブ塗りつぶしツール**  をクリックし、プロパティ バーで希望する塗りつぶしの種類を選択し、[塗りつぶし]ピッカーを開いて塗りつぶしをダブルクリックします。メッシュ塗りつぶしを適用するには、メッシュ塗りつぶしツール  を使用します。



カラーを選択する

カラーパレットは、複数のカラー ボックスから構成されています。デフォルトのカラーパレットを使用して、塗りつぶしカラーと輪郭の色の両方を選択できます。選択した塗りつぶしカラーと輪郭の色は、ステータスバー上のカラー ボックスに表示されます。



オブジェクトを均一のカラーで塗りつぶすには、カラーパレットのカラー ボックスをクリックするか、オブジェクトまでカラーをドラッグします。

輪郭カラーを変更するには、カラーパレットのカラー ボックスを右クリックするか、オブジェクトの輪郭までカラーをドラッグします。

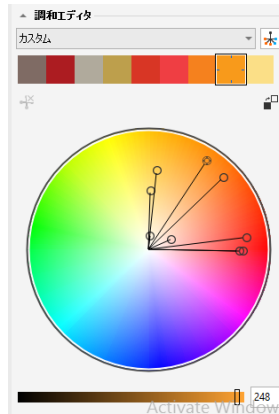
カラーを混合するには、カラーを適用するオブジェクトを選択し、**Ctrl** キーを押しながらカラーパレットで別のカラーをクリックします。

 カラーの階調を選択するには、カラー ボックスをクリックした状態を保ちます。

また、カラー ダイアログ ボックスでも塗りつぶしカラーと輪郭カラーを選択できます。その場合はステータス バーの[塗りつぶし] ボタン  または[輪郭] ボタン  をダブルクリックします。

カラー スタイルとカラーの調和

[カラー スタイル] ドッキング ウィンドウでは、ドキュメントで使用されているカラーをカラー スタイルとして追加できます。オブジェクトからカラー スタイルを作成するには、オブジェクトを[カラー スタイル] ドッキング ウィンドウにドラッグします。カラー スタイルを更新すると、このカラー スタイルを使用しているオブジェクトもすべて更新されます。カラーの調和とは一致するカラー スタイルをグループ化したもので、カラー スタイルのリンクによってカラー スキームが生成されます。カラーの調和に規則を適用すれば、すべてのカラーをまとめてシフトして別のカラー スキームを作成できます。



スポイト ツール

カラー スポイト ツール  でカラーをサンプリングすると、[カラーを適用] モードに自動的に切り替わり、サンプリングしたカラーをその場で適用できます。カラースポイト ツールをすぐにアクティブにするには、**Ctrl + Shift + E** を押します。

スポイト ツールは各種のカラー ダイアログ ボックスに配置されているので、ダイアログ ボックスを閉じることなく、ドキュメントから簡単にカラーをサンプリングしたり一致させたりすることもできます。

その他のカラー パレット

[パレット] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [パレット]) では、デフォルトのカラー パレットやカスタム カラー パレットを簡単に作成、整理、表示 / 非表示することができます。Web 専用の RGB パレットや印刷専用の CMYK パレットを作成できます。また、サードパーティのカラー パレットを追加することもできます。[パレット] ドッキング ウィンドウには、PANTONE® Goe™ システムや Fashion+Home パレットなどの PANTONE® プロファイルが含まれています。

カラー マネージメント

カラー マネージメントでは、ドキュメントの表示、変更、共有、別のファイル形式へのエクスポート、印刷などを行う際に、非常に正確にカラーを再現できます。デフォルトまたはドキュメント固有のカラー マネージメントの設定を使用して、カラー プロファイル、ポリシー、およびレンダリング方法を設定できます。ドキュメント固有の設定ファイルで作業している場合は、ドキュメント固有の設定がアプリケーションのデフォルト設定に優先します。

 デフォルトまたはドキュメント固有のカラー マネージメントの設定にアクセスするには、[ツール] ▶ [カラー マネージメント] をクリックします。

効果

等高線、ドロップシャドウ、ブロック影、ベベル効果を適用して、オブジェクトに奥行きのある立体的な視覚効果を与えます。インパクト効果を使用してプロジェクトにインパクトを加えたり、作品をモザイクに変換したりします。まわりと調和するビットマップ効果を活用すると、恒久的にオブジェクトを変えることなく、その外観を拡張できます。

等高線

オブジェクトに等高線を付けると、オブジェクトの内側または外側に向けて同心円状の線が描かれます。



✎ 等高線を適用するには、オブジェクトを選択して等高線ツール  をクリックします。始点ハンドルを中心にに向けてドラッグすると、内側向きの等高線が作成されます。始点ハンドルを中心から外側に向かってドラッグすると、外側向きの等高線が作成されます。

ドロップシャドウおよびインナーシャドウ

ドロップシャドウとインナーシャドウは、オブジェクトに当たる光をシミュレートして立体的な奥行きを加えて、外観をよりリアルにします。ドロップシャドウはオブジェクトの背後または下に、インナーシャドウはオブジェクトの内側に表示されます。カラー、不透明度、オフセット、フェードなどのシャドウ属性を調整できます。



✎ ドロップシャドウを適用するには、オブジェクトを選択してシャドウツール  をクリックし、プロパティバーでドロップシャドウツール  をクリックします。フラットシャドウの場合はオブジェクトの中心からドラッグし、遠近効果シャドウの場合はオブジェクトのエッジからドラッグします。プロパティバーで属性を指定します。

インナーシャドウを適用するには、オブジェクトを選択してシャドウツール  をクリックし、プロパティバーでインナーシャドウツール  をクリックします。オブジェクトの中心からドラッグして、インナーシャドウを目的のサイズにします。

プロパティバーから、プリセットのドロップシャドウとインナーシャドウを適用できます。

ブロック影

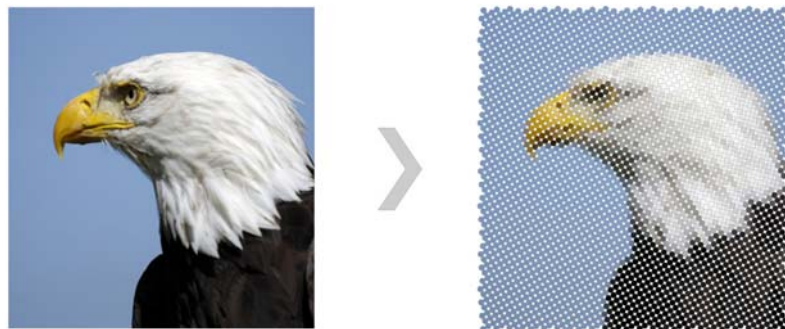
ドロップシャドウや押し出しとは異なり、ブロック影は単純な直線から構成されます。そのため、スクリーン印刷や看板の作成に最適です。ブロック影は、奥行きと方向を調整することや、カラーを変更することができます。ブロック影には穴が開いてしまう場合がありますが、削除して均一な曲線オブジェクトを作成することができます。



✎ ブロック影を追加するには、[ブロック影]ツール  をクリックし、オブジェクトをクリックします。ブロック影が意図したサイズになるまで、目的の方向にドラッグします。

モザイク

Pointillizer 効果 ([効果] ▶ [Pointillizer]) を使用すると、選択された任意の数のベクトルオブジェクトやビットマップオブジェクトから、高画質のベクトルモザイクを作成できます。精密なハーフトーンパターンから点描画に似たアーティスティックな効果まで、印象的なデザインを作成できます。



ベベル効果

ベベル効果 ([効果] ▶ [ベベル]) は、グラフィック オブジェクトやテキスト オブジェクトのエッジに傾斜を付けることにより、立体的な奥行きを与えます。ベベル効果には、スポット カラーとプロセス カラー (CMYK) の両方を使用できるため、印刷に理想的です。



ビットマップ効果

ビットマップ効果はピクセルベースであり非破壊的です。ベクトルオブジェクトとビットマップオブジェクトの両方に適用できます。ビットマップ効果は、CorelDRAW の [効果] メニューの上部に表示されます。[プロパティ] ドッキングウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキングウィンドウ] ▶ [プロパティ]) 内の [FX] タブを使用して、効果の表示、非表示、編集、追加の効果の適用などを行うことができます。



QR コード

クイック レスポンス (QR) コードは広告や包装に広く使用されています。スマートフォンのユーザーは、QR コードをスキャンして、ブランドの Web サイトに素早くアクセスし、商品の詳細を確認できます。URL、電子メール アドレス、電話番号、SMS、連絡先、カレンダー イベント、および位置情報など、QR コードに含める情報も選択できます。



QR コードを挿入するには、[オブジェクト] ▶ [QR ▶ コードの挿入] をクリックします。[プロパティ] ドッキングウィンドウの [QR コード] 領域で [QR コードの種類] リスト ボックスからオプションを選択します。

ファイルのインポート

CorelDRAW では、他のアプリケーションで作成したファイルをインポートして ([ファイル] ▶ [インポート]、または **Ctrl+I**) プロジェクトで使用できます。たとえば、Portable Document Format (PDF)、JPEG、または Adobe® Illustrator® (AI) ファイルをインポートできます。ファイル形式は、

使用順、拡張子、テキスト、または説明を基準に並べ替えることができます。

ファイルは、アクティブなアプリケーション ウィンドウにオブジェクトとしてインポートできます。また、インポート時にファイルのサイズを変更して、中央に配置することもできます。

ピクセル表示



ピクセル表示では、ピクセル ベースのレンダリングによる描画が表示されます。領域を拡大して、オブジェクトの位置をより正確に設定することができます。また、デザインが Web でどのように表示されるかをより正確に再現することもできます。

 ピクセル表示を有効にするには、[表示] ▶ [ピクセル] をクリックします。プロパティ バーの [ズーム レベル] リスト ボックスで [800%] を選択します。

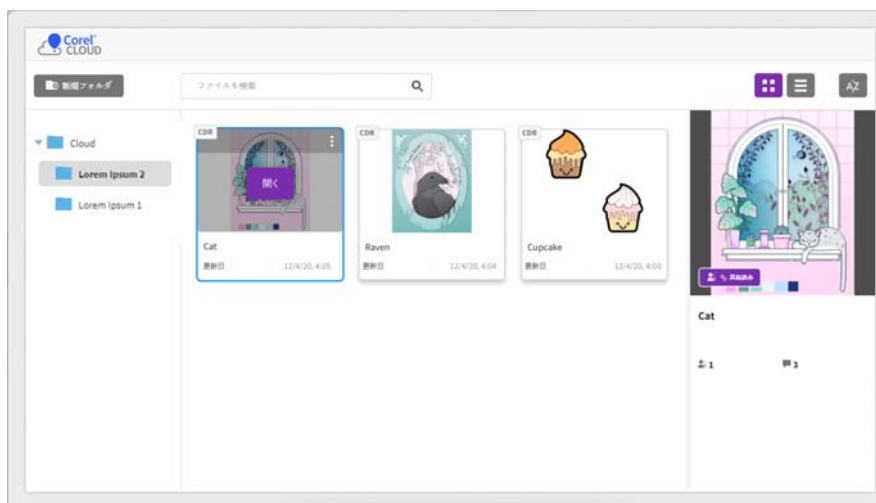
コラボレーション

CorelDRAW を [CorelDRAW.app](#) と組み合わせて使用すると、デザイン プロジェクトで他のユーザーとデバイスを問わずにコラボレーションできます。CorelDRAW の [注記] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [注記]) を使用すると、ドキュメントに追加されたあらゆるコメントを文脈の中でリアルタイムに表示し、対処して、フィードバックを入力できます。注釈アイコン、矢印、長方形、楕円、線、および自由な形状の図形でドキュメントをマークアップしたり、マークアップにコメントを関連付けて追加したりできます。さらに、**コラボレーション テキスト ツール**  を使用すると、共同著作および共同編集のテキストに寄稿者とクライアントを含めることができます。



CorelDRAW と CorelDRAW.app の両方からアクセス可能なダッシュボードが、コラボレーション ハブの役割を果たします。Corel Cloud 上の描画がすべて含まれているほか、プレビュー、コメント数、チーム メンバー数、プロジェクト ステータスがワンクリックで表示されます。また、デザインをこのダッシュボードで CorelDRAW から直接共有でき、ファイルをひとつひとつ開く必要がありません。

 ダッシュボードにアクセスするには、[ファイル] ▶ [クラウドから開く] または [ファイル] ▶ [クラウドに保存] をクリックします。



写真の編集

CorelDRAW Graphics Suite には、写真やその他のビットマップを効果的に効率よく編集するための機能が数多く用意されています。Corel PHOTO-PAINT でのみ利用できる機能もあります。

[調整] ドッキング ウィンドウ

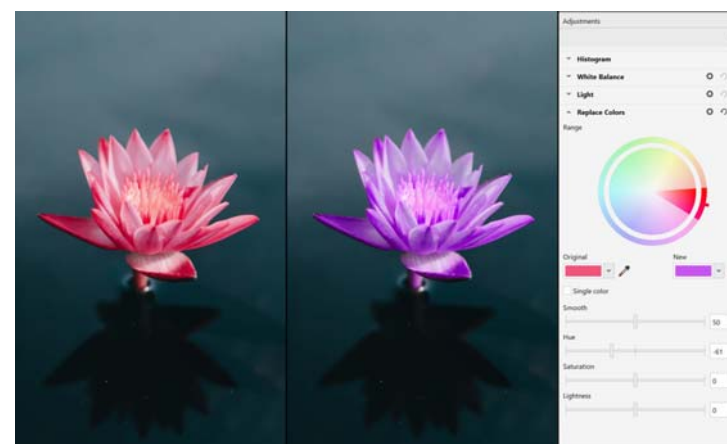
Corel PHOTO-PAINT の [調整] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [調整]) は、写真の調整で最初に使う機能です。広く用いられている調整の大半を、非破壊的に、変化を実際に見ながら適用できます。また、ローカル調整モードを使用して、写真の特定の領域のみ編集することもできます。



ドッキング ウィンドウに調整を追加するには、[調整の追加] ボタン **+** をクリックし、調整を選択します。調整には、[ホワイトバランス]、[ライト]、[トーンカーブ]、[コントラスト強調] などがあります。

調整を表示または非表示にするには、調整名の右にあるチェック ボックスをオンまたはオフにします。

写真のカラーを置き換えるには、[カラーの置き換え] 調整を使用します。



CorelDRAW では、調整には [効果] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [効果]) から、または [効果] ▶ [調整] メニューからアクセスできます。

写真から不要な領域を削除して不完全部分を修正する

Corel PHOTO-PAINT のカットアウト ラボ ([イメージ] ▶ [カットアウト ラボ]) では、周囲のバックグラウンドからイメージ領域を切り取ることができます。この機能を使用して、髪の毛やぼんやりしたエッジなどのエッジ細部を維持しながら、イメージ領域を分離できます。

クローン修復ツール  は、イメージの不要なしみや不完全な部分をサンプリングしたテクスチャでペイントして、その部分のカラーをレタッチしている領域のカラーに一致させることで、慎重に取り除くことができます。



特殊効果

カメラ効果には、ボケぼかし、カラー化、セピア調、タイムマシンなどがあり、これらによって写真にユニークな視覚効果を与え、歴史を感じさせる写真スタイルを再現できます。また、デッサン、絵画、エッチング、または抽象派絵画のような外観に変換することもできます。特殊効果には、CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT の [効果] メニューからアクセスできます。



Corel PHOTO-PAINT では効果を破壊的にも非破壊的にも適用できます。効果を破壊的に適用すると、変更内容が永久に保持されます。効果を非破壊的に適用した場合は、オリジナルのイメージに影響が及びません。そのため、変更内容の編集や削除、表示 / 非表示の切り替え、オリジナルのオブジェクトやイメージの復元がいつでも可能です。

 効果を破壊的に適用するには、[効果] メニューを使用します。

効果を非破壊的に追加するには、[効果] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [効果])、または [オブジェクト] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [オブジェクト]) の [効果の追加] ボタン  を使用します。

RAW カメラ ファイル

RAW カメラ ファイルをインポートすると、ファイル プロパティやカメラ設定の情報を確認したり、イメージのカラーやトーンを調整したり、イメージ品質を改善できるようになります。Corel® AfterShot™ 3 HDR を CorelDRAW や Corel PHOTO-PAINT から追加料金なしでダウンロードして、RAW または JPEG 形式の写真の修正や補正を簡単に行ったり、バッチ処理ツールを使用して、1 枚にでも、まとめて何千枚にでも、写真に調整を適用したりできます。また、AfterShot 3 HDR に付属の HDR モジュールを使用して、HDR (ハイ ダイナミック レンジ) イメージを作成することもできます。

[オブジェクト] ドッキング ウィンドウ

Corel PHOTO-PAINT の [オブジェクト] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [オブジェクト]) では、イメージ内のオブジェクトを表示 / 管理できます。たとえば、オブジェクトの表示 / 非表示、名前変更、スタック順序の変更が可能です。また、マージモードを選択し、上のオブジェクトと下のオブジェクトをブレンドする方法も指定できます。

イメージのサイズおよび解像度

イメージのサイズと解像度は印刷画質を左右します。[リサンプル]ダイアログボックス([イメージ]▶[リサンプル])を使用して、アートワークの使用目的に合ったサイズと解像度を選択できます。AIを活用するアップサンプリングオプション(イラストやフォトリアリスティックなど)を使用すると、ディテールを失わずにイメージを拡大できるほか、拡大イメージの画質が向上してビットマップトレースの結果が向上します。機械学習モデルのおかげで、アップスケールされたファイルにおいて追加部分のクリーンなエッジ、シャープさ、繊細なディテールが保たれます。



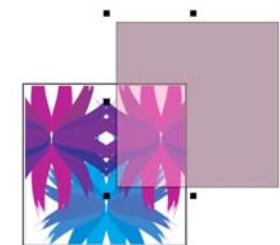
ブラシ ピッカー

Corel PHOTO-PAINT の[ブラシ]ピッカーでは、すべてのブラシ カテゴリとブラシの種類を一元化することでブラシが探しやすくなっています。[ペイント]、[効果]、[クローン]の各ツールのプロパティ バーで使用できるブラシ ピッカーでは、ブラシの先とストロークのプレビューを表示でき、最近使用した5つのブラシの設定が保存されます。



透明度

オブジェクトの透明度を変更して、オブジェクトの下にあるイメージ要素を見えるようにすることができます。標準、グラデーション、テクスチャ、またはビットマップパターンの透明度を適用できます。



Corel PHOTO-PAINT で透明度を適用するには、**オブジェクト透明ツール**  をクリックし、プロパティ バーのコントロールを使用するか、または[オブジェクト]ドッキングウィンドウの[不透明度]コントロールを使用します。

CorelDRAW で透明度を適用するには、[オブジェクト]▶[プロパティ]をクリックし、[プロパティ]ドッキングウィンドウの[透明度]領域を使用します。

ビットマップのトレース

クイックトレース コマンドを使用して、ビットマップをトレースしてベクトル グラフィックにワンタッチで変換できます。また、PowerTRACE コントロールを使用して、トレースの結果のプレビューや調整ができます。Corel PowerTrace の[調整]ページからアクセスできる AI 支援機能により、ビットマップからベクトルへのトレースで最適な結果が得られます。最先端のイメージ最適化オプションを使用して、トレースするビットマップの画質を向上させることができます。

ビットマップをトレースするには、CorelDRAW でビットマップを選択し、プロパティ バーで[ビットマップのトレース]をクリックしてトレース方法を選択します。

スタイラス、タッチ デバイス、ホイール デバイス

ペンやスタイラスを最大限に活かして、ブラシストロークをコントロールできます。CorelDRAW では、アート メディア ツールの [表現] モードと消しゴム ツールのどちらも、スタイラスの筆圧、傾斜、方向に反応します。また、Corel PHOTO-PAINT では、消しゴム ツールとペイント ツールなどのブラシ ツールが、ペンの筆圧、傾斜、方向、回転をサポートしています。



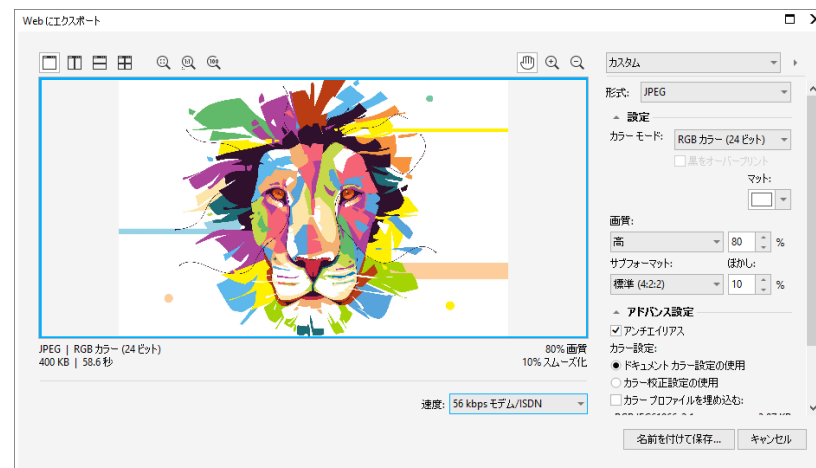
CorelDRAW Graphics Suite には、タッチ ジェスチャをサポートするタッチ作業領域 ([ウィンドウ] ▶ [作業領域] ▶ [タッチ]) と、作業領域の自動切り換え機能が備わっており、タッチ対応デバイスの能力を最大限に活用できます。

ファイル、オブジェクト、ページをエクスポートする

イメージをエクスポートし ([ファイル] ▶ [エクスポート])、または **Ctrl + E**、各種のファイル形式で保存することにより、他のアプリケーションでも使用できるようになります。たとえば、Adobe Illustrator (AI)、PDF、JPG の各形式にファイルをエクスポートできます。CorelDRAW (CDR) ファイルの機能を必ずしもすべてサポートしていないファイル形式もあるため、エクスポートする前に元のファイルを CDR ファイルとして保存しておくことをお勧めします。

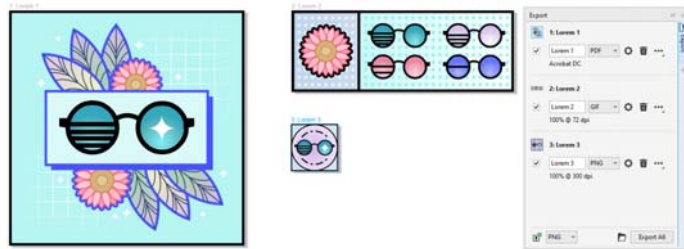
[Web にエクスポート] ダイアログ ボックス ([ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [Web]) には一般的なエクスポート コントロールが用意されてお

り、ファイルをエクスポートする前に各種のフィルタ設定の結果をプレビューできます。さらに、オブジェクトの透明度とアンチエイリアス化したエッジのマット カラーを指定できます。これらをすべてリアルタイムプレビューで行えます。



また、プロジェクトを WordPress に適したビットマップイメージにエクスポートし、それを WordPress アカウントにアップロードすることもできます ([ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [WordPress])。

CorelDRAW の [エクスポート] ドッキング ウィンドウ ([ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [複数ファイル]) を使用して、1 つ以上のオブジェクトとページ、またはオブジェクトのグループを PDF、JPEG、PNG、および GIF 形式にエクスポートできます。



1 つのオブジェクトをエクスポートするには、まずドキュメントでオブジェクトを選択し、[エクスポート] ドッキング ウィンドウの [新規追加] ボタン  をクリックして、オブジェクトをエクスポート リストに追加する必要があります。

アクティブなページをエクスポート リストに追加するには、ページ上のすべてのオブジェクトの選択を解除し、[エクスポート] ドッキング ウィンドウの [新規追加] ボタン  をクリックする必要があります。

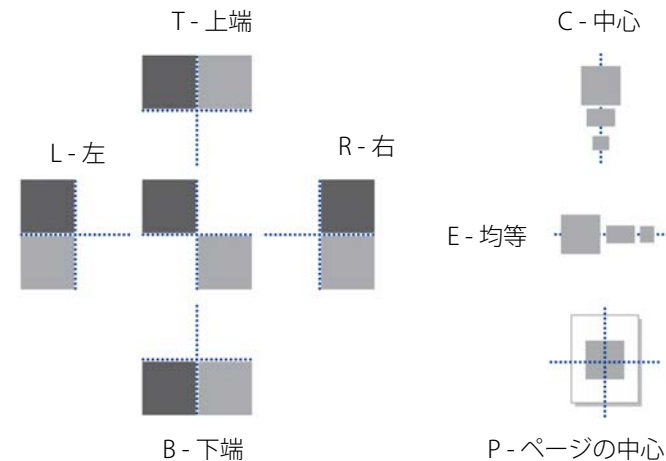
[エクスポート] ドッキング ウィンドウからアセットをエクスポートするには、名前の横にあるチェック ボックスをオンにして、各アセットに必要なエクスポート設定を指定して、[すべてエクスポート] をクリックします。

エクスポート リストのアイテムの設定を再利用してアセットを追加するには、ドキュメントでアセットを選択します。[エクスポート] ドッキング ウィンドウで、設定をコピーするエントリの横の [オプション] ボタン  をクリックし、[これらの設定でアセットを追加] をクリックします。

キーボード ショートカット

すべてのキーボード ショートカットを表示するには、[ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。カテゴリの [カスタマイズ] リストで、[コマンド] をクリックし、[ショートカット キー] タブをクリックして、[すべて表示] をクリックします。

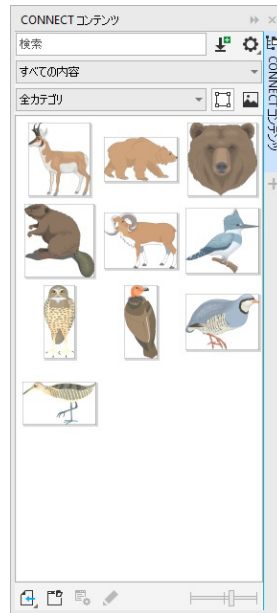
整列設定のキーボード ショートカットを使用すれば、オブジェクトをページに簡単に配置できます。整列させるオブジェクトを選択し、ショートカット キーを押します。



コンテンツを検索 / 管理する

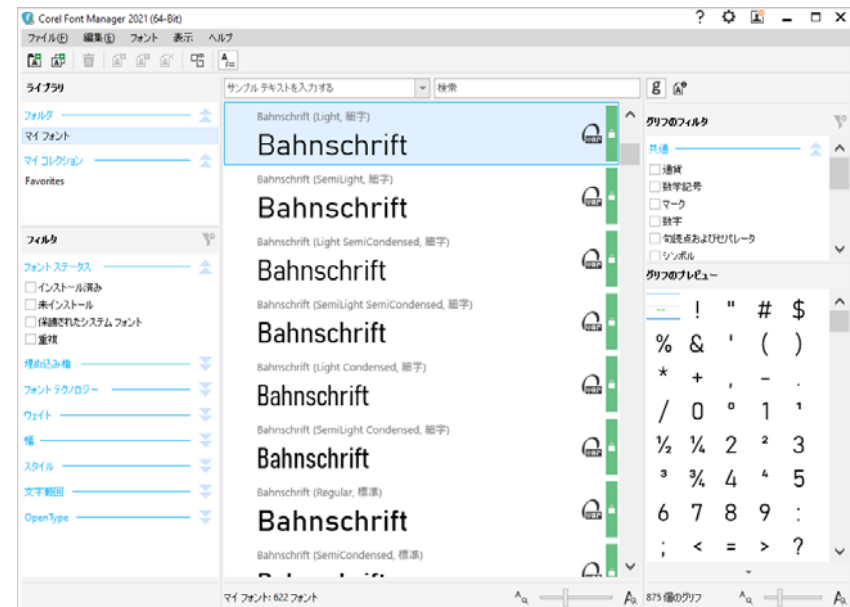
コンピュータやポータブル デバイス、ネットワーク フォルダに保存されているクリップアートや写真を簡単に検索して管理することができます。[CONNECT コンテンツ] ドッキング ウィンドウ

([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [CONNECT コンテンツ]) では、使用可能なコンテンツを検索したりブラウズしたりできます。必要なクリップアートやビットマップが見つかったら、プロジェクトに追加することができます。手始めとして、Corel では Documents\Corel\Corel Content\Images フォルダに保存されているローカル コンテンツを用意しています。イメージのコレクションを拡充する場合は、[追加] ダイアログ ボックスでイメージ パックを追加でダウンロードできます。



Corel Font Manager™

Corel Font Manager™ では、書体やフォント コレクションを簡単に操作、整理、検索できます。プロジェクト用のフォントの検索とインストール、お気に入りのフォントに簡単にアクセスできるようにするためのフォントコレクションの作成、不要なフォントの管理、フォントやフォント パックのダウンロードが可能です。さらに、Corel Font Manager では、フォントのフォルダやコレクションをインポートおよびエクスポートできます。これにより、共有や、本ソフトウェアの別バージョンでの使用が簡単になります。



Copyright © 2021 Corel Corporation.All rights reserved.

CorelDRAW® Graphics Suite 2021 クイック スタート ガイド

製品の仕様、価格設定、パッケージング、テクニカル サポートおよび情報 (「仕様」) は、英語版にのみ該当します。他のすべてのバージョンの仕様 (他言語版も含む) は異なる可能性があります。

掲載された情報は、明示、黙示を問わずその他一切の保証または条件 (市販可能な品質に関する保証、適正品質に関する保証、または商品性、特定用途への適合性等の保証、あるいは、法律その他の法令、取引慣行、取引過程等により発生するものを含むがこれに限らない) を伴わずに「現状有姿」ベースで COREL によって供給されるものとします。提供された情報またはその使用の結果に関する一切のリスクはユーザーが負うものとします。いかなる場合においても、損害の発生する可能性について知らされていた場合や、予測可能であっても、収益または利益の損失、データの損失または損害、またはその他の経済的な損失を含み、それらに限定されない損失や損害に対して、COREL は間接損害、偶発損害、特別損害または結果的損害、あるいはいかなる損害について、個人または団体に対して如何なる責任も負いません。また、Corel は、第三者からなされた如何なる請求に対しても責任を負いません。Corel のお客様に対する最大債務総額はお客様が製品の購入に支払った費用を超えないものとします。間接的または二次的損害の免責または責任限定が認められない一部の州 / 国では、上記の制限事項は適用されない場合があります。

Corel、Corel ロゴ、Corel バルーン ロゴ、CorelDRAW、CorelDRAW バルーン ロゴ、Corel Font Manager、CAPTURE、CONNECT、LiveSketch、Corel PHOTO-PAINT、PowerClip、および PowerTRACE は、カナダ、米国、およびその他の国々、またはそのいずれかにおける Corel Corporation およびその関連会社、またはそのいずれかの商標、または登録商標です。その他の製品名、フォント、および会社名とロゴは、それぞれ該当する会社の商標または登録商標です。

特許 : www.corel.com/patent

201231